

## 令和8年度 推進業務 仕様書 補足資料

### 「ゆりはま地域価値推進事業基本構想」

～次世代へ誇れる「湯」と「梨」の新産業創出に向けて～

#### ※留意事項

本資料は、令和7年度に事業者とともに策定した基本構想です。今年度の活動内容には未確定な部分もあるため、提案事業者の創意工夫に基づき、本資料の内容を踏まえたうえで変更を加えた提案を妨げるものではありません。



## ■ 2040年という到達点

2040年は、現在（2026年）の中学生や高校生が30代を迎え、結婚・出産・子育て・仕事など人生の大きな選択をする年代に入る時期です。地域の担い手として育っていく世代を見据えた「未来づくりのゴール」として、現実的で象徴的な年といえます。あわせて、自治体の中長期計画の見直し時期とも重なり、施策の検証と次の計画につなげやすい節目でもあります。本プロジェクトでは、2040年を明確な到達点とし、段階的にビジョンの実現を目指します。

## ■ 「成長した若者たちが戻ってきたいと思える町」へ

目指すのは、都会に出た若者が地元の魅力や可能性に気づき、「戻る」「関わる」という選択肢を自然に持てる地域です。2040年の湯梨浜町では、デジタル技術や多様な働き方を活かしながら、地域とつながって暮らす人が増えている姿を想定しています。「自分の育った町が好きだ」「いつか戻りたい」と思える町づくりが、このプロジェクトの出発点です。

## ■ 2040年に湯梨浜町が直面する課題

2040年には、人口減少と高齢化がさらに進み、特に若年層の流出が大きな課題となります。あわせて、医療・介護ニーズの増加や買い物弱者への対応など、地域サービスの維持も難しくなることが想定されます。こうした課題に向き合うには、若者が働き、挑戦し、関わり続けられる環境づくりが必要です。その土台となるのが、「湯梨浜町に住むこと・関わること」への誇りを育てることです。

## ■ この課題への一つの答えとしての「温泉熱利活用フルーツ事業」

こうした背景のもと、湯梨浜町では町の資源を活かした新産業づくりに取り組んできました。その具体的な第一歩が「ゆりはま温泉熱利活用フルーツ事業」です。温泉という地域資源と、果物栽培の風土を掛け合わせることで、新しい産業の柱をつくり、若者が「面白い」「関わりたい」と思える湯梨浜町の未来につなげていきます。

# ゆりはま温泉熱利活用フルーツ事業 なぜ温泉なのか？なぜフルーツなのか？

## 1. なぜこの事業に取り組むのか？（事業の背景と目的）

### ■ 持続可能な地域社会の実現に向けた「新産業創出」

湯梨浜町では、人口減少や農業の担い手不足といった地域課題に直面する中、将来世代に魅力ある地域社会を引き継ぐため、「ゆりはま地域価値共創プロジェクト」を推進しています。本事業は、単なる農業振興にとどまらず、町の固有資源を最大限に活用し、新たな雇用創出、企業誘致、そして次世代の農業教育拠点の構築を目指す「新産業創出」の取り組みです。

### ■ 「公設民営」による持続可能な運営モデルの構築

行政（インフラ整備）、運営事業者（施設管理・保守）、民間企業（栽培・販売）がそれぞれの強みを活かす「公設民営（プラットフォーム型）」モデルを採用し、単一企業への依存リスクを回避しながら、多様な事業者が参画できる持続可能な仕組みを構築します。

## 2. なぜ温泉なのか？（未利用資源の価値最大化と脱炭素化）

### ■ 豊富な「未利用温泉熱」の有効活用

湯梨浜町には東郷温泉・はわい温泉という豊かな温泉資源があります。源泉温度が70～80℃と高温である東郷温泉（龍島地区等）の熱を、入浴施設へ供給する前に「熱交換」によって農業用ハウスの加温に活用することで、これまで見過ごされていた熱エネルギーの価値を最大化します。

### ■ 化石燃料に依存しない「脱炭素農業」の実現

従来の加温ハウス栽培で大きな課題となるのが、重油等の化石燃料費の高騰です。本事業では、再生可能エネルギーである温泉熱を熱源として利用することで、燃料コストを大幅に削減するとともに、環境負荷の低い「ゼロカーボン農業」を実現し、環境省等の交付金活用やSDGsの観点からも優位性を確保します。

## 3. なぜフルーツなのか？（高付加価値化とブランド力向上）

### ■ 二十世紀梨の最大産地としての「果物の風土」

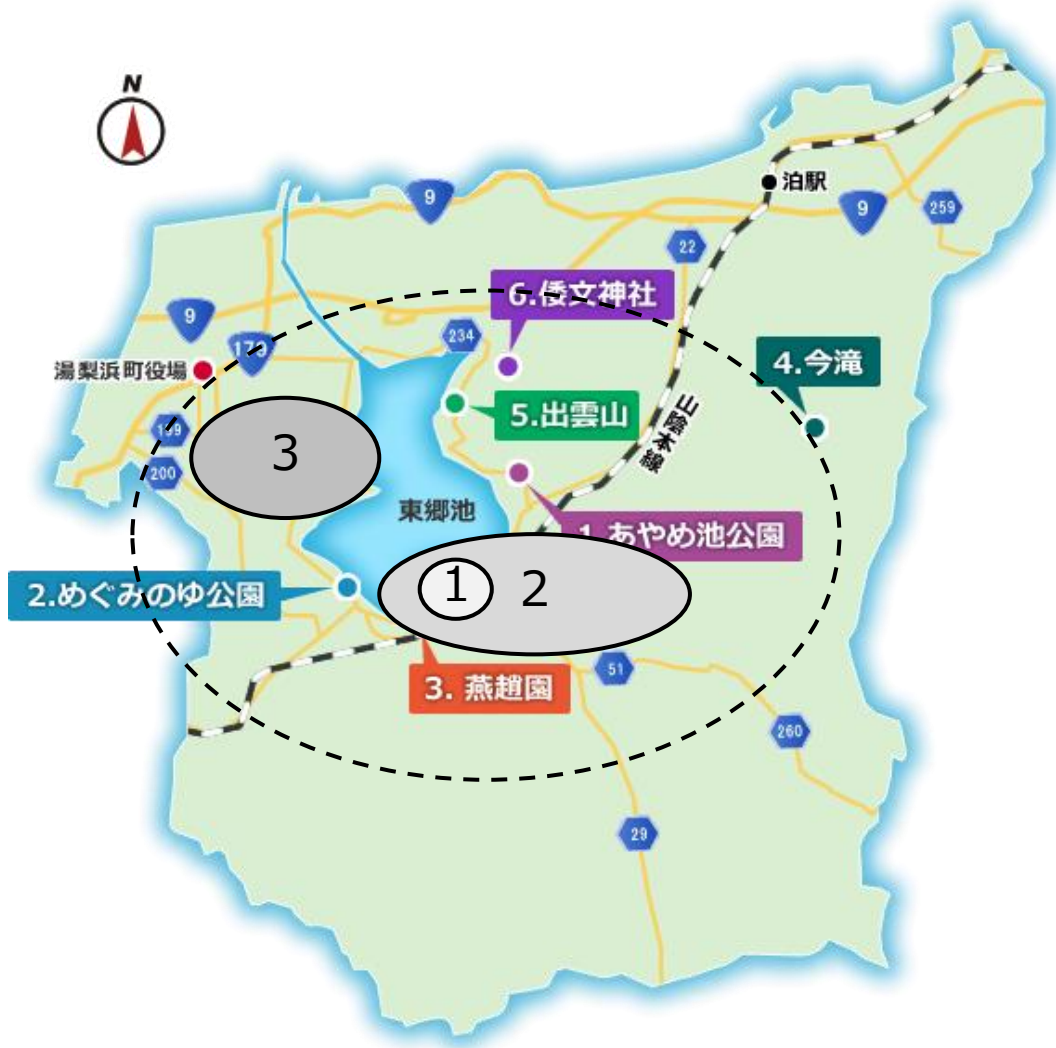
湯梨浜町は、「二十世紀梨」の県内最大級の産地であり、長年にわたり果物栽培に携わる農家が数多く存在します。果物を作付けし、育て、出荷するという営みが地域の暮らしに深く根付いており、フルーツ栽培に関する技術・知見・販路が町内にすでに蓄積されています。この「果物の町」としての風土と実績があるからこそ、新たなフルーツ栽培への展開はゼロからの挑戦ではなく、既存の農業基盤の上に新たな価値を積み重ねる取り組みとして、高い実現可能性を持っています。

### ■ アグリテック企業等の誘致と多様な品目展開

フルーツの栽培は、高度な環境制御技術を要するため、都市圏等のアグリテック（農業IT）企業の参入意欲を喚起しやすい分野です。梨に限らず、ブドウ、イチゴ、メロン、マンゴーなど多品目・多事業者による栽培を展開し、「温泉フルーツ立国」として全国に発信します。

## 「ゆりはま温泉フルーツ立国」への3段階ロードマップ

～2040年までに町全体で温泉熱を活用した農業インフラを整備～



### 第一フェーズ(2026-2030年) 龍島地区での実証モデル確立

龍島地区5,500m<sup>2</sup>で温泉熱農業の技術的仕組み・インフラを確立し、  
①民間企業誘致と②農業の担い手育成事業を開始

町の新産業になる可能性が高い！

### 第二フェーズ(2030年以降) 東郷温泉エリア(高温)への展開

龍島地区での実証成果をもとに、東郷温泉エリア（高温エリア）の他地域へ展開し、規模を拡大します。

高温での熱交換は成功した。低温でもできるのか？

### 第三フェーズ(2035年以降): はわい温泉エリア(低温)への拡大

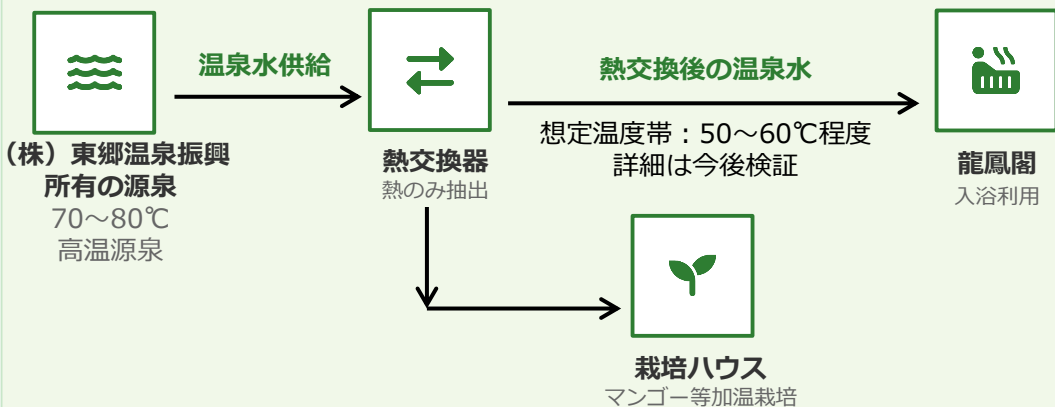
はわい温泉エリア（低温エリア）など町内に「農業温水施設」が増えていき、湯梨浜温泉フルーツ立国を実現します。

事業用地 約5,500㎡  
 施設規模 耐候性ハウス等最大8棟(1棟あたり 6m×45m)  
 熱源 (株) 東郷温泉振興所有の源泉(70-80℃)  
 上下水道完備・循環返湯システム

東郷池南端部にある東郷温泉エリアに位置する龍島地区。  
 事業用地は約77m×77mのほぼ正方形(南東部に一部凹地あり)。このエリアに「6m×45mのハウス」を最大8棟設置できる想定。水源は上下水道を利用。



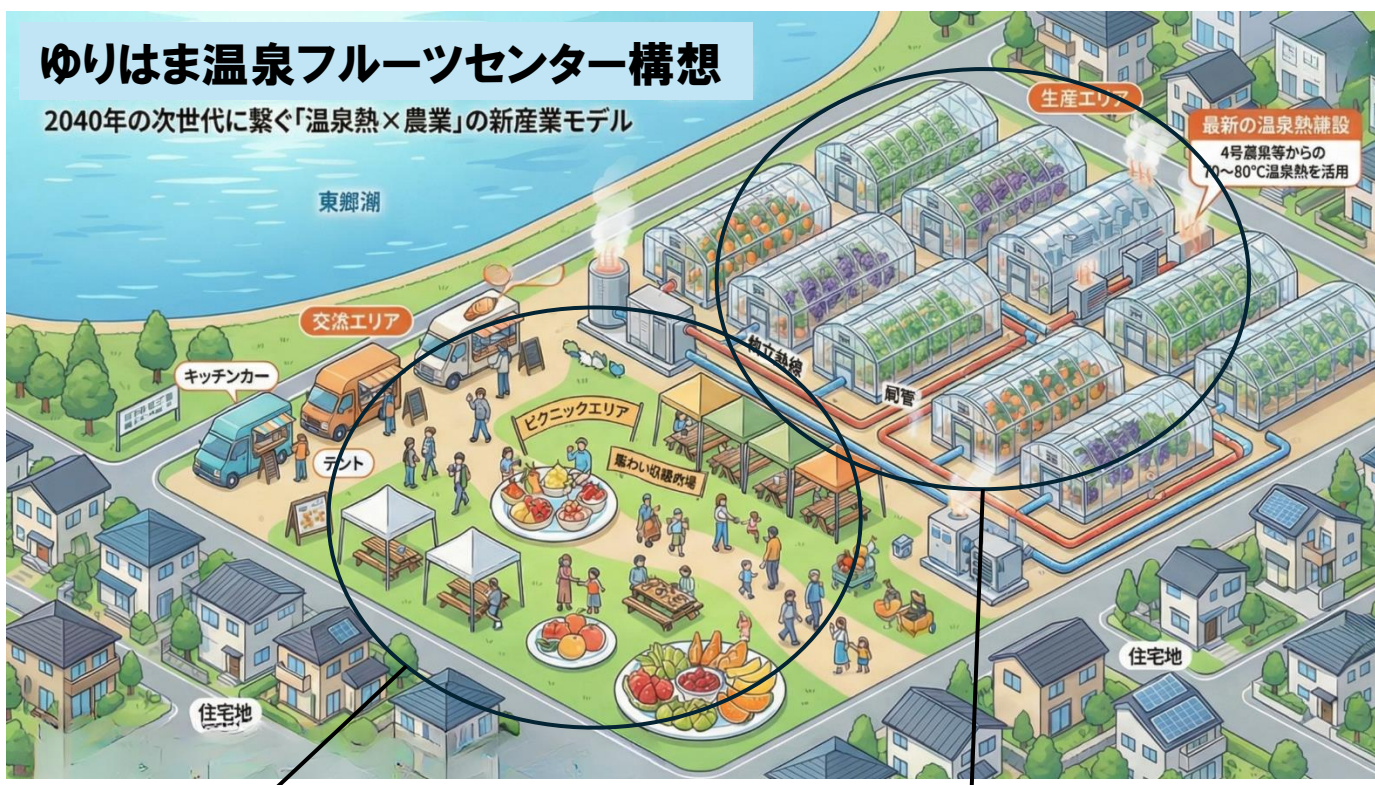
龍島地区における熱利用スキーム (循環型モデル)



※熱交換後の温泉水を近隣施設(龍鳳閣)へ返湯することで、加水調整の手間を省き、エネルギーを無駄なく活用する「一石二鳥」の仕組みを目指す

ゆりはま温泉フルーツセンター構想

2040年の次世代に繋ぐ「温泉熱×農業」の新産業モデル



■ 交流エリア

- ① 事業自体への関心層  
官民連携事業や温泉熱農業の先駆的事例として官民関係者への視察受け入れ
- ② 生産物を活用した観光振興  
旅行者や観光者が収穫体験。フルーツを利用したスイーツなどの提供も検討

■ 生産エリア (フルーツセンター運営事業者管理)

- ① 区画転貸事業  
民間企業(3社程度)に整備済み区画を賃貸し温泉熱を供給
- ② 自社運営事業  
新規就農者・ベンチャー・地域おこし協力隊向けに人材育成プログラムや実証フィールドを提供